

令和5年度 第2回ナセBA運営協議会議事録

1. 開催日時

令和6年1月30日(火) 午後3時～午後5時

2. 開催場所

ナセBA1階・体験学習室

3. 出席者 (9名出席)

(委員)

我妻 仁(会長)、北口 己津子(副会長)

太田 和広、阿部 好弘、西山 まなみ、下嶋 恵美、佐藤 繁、白田 静雄、吉澤 恭子

(事務局)

種村 信次、渡部 洋己、設楽 由加利、青木 昭博、遠藤 朋香、齊藤 かおり、福石 敏史、
宮澤 崇士、遠藤 友紀

4. 開会

5. 理事長挨拶

今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

今年は、年明けから大地震や航空機事故などが発生し大変厳しい幕開けとなりましたが、先々は是非明るい年になりますようお祈りしたいと思っております。

皆様には、月末の大変お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。

本協議会は当ナセ BA の事業運営について、外部評価の視点から様々なご意見を頂戴しまして運営改善に繋いでいくという趣旨で開催しているものでございます。本日は令和5年度の事業実施状況および令和6年度の事業案の2点につきまして、ご報告およびご説明をさせていただきます。それぞれにつきまして、皆様方からご質問や率直なご意見を頂戴したいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、令和5年度の4月から12月までの施設利用状況であります。図書館の来館者が13万742人で前年比109.3%、学習室が5万3055人で前年比138.2%と、非常に多くのご利用をいただいております。

また、図書館の貸出数ですが27万18冊で前年比98.5%となっております。市民ギャラリー・展示室は3万8642人で前年比120.8%です。入館者数は順調に回復していると思っておりますが、貸出数は若干減少しているようです。おそらくコロナ禍が落ち着いて、皆さんが多忙になってきた影響かと見ておまして、今後の推移を見ていきたいと思っております。

先日、土曜日の日経新聞の書評欄に『図書館は生きている』という本の紹介が出ていました。

この本は世界の図書館を訪問されている方が書いたもので、「誰ものけ者にしない場所」という着眼点が目に留まりました。是非参考にしたいと思ったところです。図書館にも在るということでしたが、既に貸出されているということでございますので、市民の皆様方も関心を持っていらっしゃるのだなと感じた次第です。

来年度に向けまして図書館・ギャラリーともども様々な課題を残しておりますけれども、それぞれの運営の改善を進めまして、来館者に愛される、市民にとって誇りとされる施設でありたい。そういった目的をしっかりと果たせるように、職員一同努めて参りたいと存じます。引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願いを申し上げます。

今日は是非、皆様方からご意見を頂戴していきたいと思っておりますので、よろしくどうぞお願い申し上げます。

6. 会長挨拶

皆様こんにちは。よろしくお願い申し上げます。昨年は米沢市の市長選挙も実施されまして、新しい体制のもとに市政がスタートしました。それぞれの候補から教育については色々議論がありました。芸術や文化の振興に関する話はどの候補からも出てこなかったのかなという感じがしました。個人的には、やはり、その街の芸術文化の有り様というものが、その街の品格を形作る骨格、ベースになるものなのかと思えます。そういった意味では米沢市の芸術や文化、また図書文化を担っていくナセ BA や伝国の杜を含めて、芸術や文化といったものを如何に市民の中で定着をし、より発展させていくかということをお我々は常に考えていくことが、ひいては米沢の街の品格を高めたり、またそれが観光・インバウンドにも繋がっていく最も大切なものなのだろうということをお市長選での議論を通じて感じたところです。

そういう意味ではナセ BA の運営は、我々市民一人一人にとっても、より良いものになっていっていただきたいというのは、強い願いであります。このような運営協議会の中でそれぞれ市民の代表としてご参加いただいている皆様方から忌憚のない協議をしていただいで、このナセ BA が米沢の芸術文化のベースになるよう、また芸術文化の有り様・品格を高めていくものになっていけるように、有意義な議論をしていただければと思えます。本日は最後までどうぞよろしくお願いいたします。

7. 協議

(1) 令和5年度事業実施状況および図書館利用状況の推移について

事務局から資料に基づき説明。【資料 1】【資料 2-1】【資料 2-2】

(委員)

コロナ禍が明けて、また利用者が微増してきたということで良かった。事務局から課題と対応を聞いたところだが、コロナ禍以前と比べての利用者の減少の大きな理由や、課題に対する対

策に今後どのように取り組んでいくのかを聞かせていただければと思う。

(委員)

私の場合は、図書館の利用者よりも、ギャラリーで何か催し物があるとお店を利用してくれる方がすごく増えるので、ありがたい。ギャラリーの利用率は少し下がっているようだが、12月までの数字なのでもう少し伸びると思う。もう少しギャラリーで催し物をしてもらえると、私としてはありがたい。

先日の新聞で紹介されていた「ナセ BA うちどくビンゴスタンプラリー」の取組は、すごく良いものだと思って記事を読んだ。

(委員)

子どもの貸出冊数が増えているということで、本に興味を持っている子どもは多いのだろうと感じた。7か月検診時のブックスタートでは、4年前に上の子の時にもらった本とは全く違ったラインナップがなされていて、非常にありがたい気持ちで色々な本に触れさせてもらった。

「おはなしのへや」も再開して、私の子どもは久々の大型絵本にすごく興奮して楽しんでいる。「おはなしのへや」のスペースをもっと活用して、色々なイベントがあるともっと楽しいだろうと思う。

近所の70代の方から、「図書館には行くが本を読む以外のものがあまり無い。鷹山大学みたいなものが図書館でもやっていると、ワークショップや講座に参加して、本も借りて帰ることが出来るというように、一か所で完結するような形になると嬉しい。」という話を聞いた。子どもも同じで、児童会館やコミセンも色々な行事をやっているので重複する部分もあるのかもしれないが、本も借りられて、他のイベントにも参加できるとありがたいと思う。

(委員)

コミセンでは、アタゴオルから一回に20冊ほど本を借りているが、年代別の利用状況の報告のとおり30代40代の女性の利用者から好評をいただいている。テレビで話題の本をコミセン職員が選んで置いたところ、利用者の方から選書を褒められた。また、個人で来館して借りるよりも長期間借りられるので、コミセン職員としては利用しやすいと思っている。アタゴオルの利用者は、お子さんと一緒のお母さんや高齢の方が多いと思うが、色々な年齢層の方がいらっしゃるので、色々な年代の目で本を選んで今後も活用したいと思っている。

高校生の娘が、ナセ BA 内に自動販売機が欲しいと言っていた。検討いただければと思う。

(委員)

他の委員からも話があったが、「おはなしのへや」が復活されたということで、昨年秋に年長児と読み聞かせをしてくださっているお母さんで、絵本の読み聞かせ会を「おはなしのへや」で開いた。コロナ禍で、読み聞かせ会は何年かぶりのことで大変楽しみにしていた。読み聞かせ会の前後に、年長児が自分の好きな本を一冊ずつ借りるようにしたら、子どもたちは時間をかけて一生懸命選んで、図書館に興味をもったようだった。この機会に図書館へ足を運ぶ数が増えたというお母さんもいらっしゃったので、そういったことをきっかけにして図書館へ行き来してくれるようになったらうれしいと思う。利用者の年代に関する報告から、30代40代の女性が多い

ということは、お子さんをお持ちのお母さん方がお子さんと一緒に本を借りていくのだろうと思った。

コロナが5類に切り替わって、これから図書館の利用者が増えていくものと信じている。読み聞かせ会の際に館長から開催中の読書感想画展の観覧を勧めてもらったので、本に親しんだ後にそのままの流れで感想画展を見た。本と絵のイメージが繋がって、幼稚園に帰った後もその話題で盛り上がったので、とても良い時を過ごせたと思っている。

(委員)

報告で、中高生の利用が非常に落ちていることがよく分かった。中高生が学習室には来ているが、本を借りないという傾向がはっきり数字に表れていると言える。利用者の男女比に偏りがあるという点だが、学校の図書館も男子と女子で図書館にいる割合が違っている。同じような傾向が学校でも米沢図書館でも見られると、数字を見て思った。

今の時代、デジタル化が進んでいて、生徒は本屋に行って現金で本を買うのではなくて、電子書籍を電子マネーで買って、電子端末で見ていることが多いように思う。少なくともそういった形で、色々な文化や知識に触れてもらえればそれはそれで良いのだが、やはりスタートの部分で、読み聞かせやブックスタートのように本に親しむ習慣付けのような事業の意義は大きいと痛感している。そういった部分でも米沢図書館は積極的に取り組んでいると思う。

今年度一回目の会議で申し上げたアウトリーチという社会教育の課題に対して、アタゴオルの巡回や出張おはなしかいの事業等、図書館から外へ出ていく活動も十分になされていると感じている。

2点ほど質問がある。1つはアタゴオルの配本箇所69か所のうち、今年度からの新規箇所の3か所と廃止の3か所は、それぞれどういった観点で決めているのか。

もう1点は、デジタル情報への変換について、資料保存の観点ではフィルム等の資料は劣化が早いという問題があるが、フィルムからデジタルに変換したものは、画像データでパソコン等に保存しているのか。

(委員)

年代別利用者の傾向の説明を聞いて、小学生はまだまだ本が好きなのだと改めて思った。本校では今も毎朝読書の時間を設けている。少なくなってきたが、他の学校でも週に1回のペースで取り組んでいる学校が多いのではないかと考えている。

最近『くても』であったおはなしかいに行って来たよ。」という1年生の子も結構おり、このような場所を活用した事業は、小学生にとっても良いことだと改めて思う。

感想画については、小学校では図工の時間にだいたいどの学年でも夏過ぎから取り組んでいる。子どもたちはどの本について描こうかなど悩みながらも、楽しんで読書している。ただ、感想文については、コロナの影響もあって、なかなか学校で長い作文を書かせるという時間が授業の中で設定し辛いこともあり、最近は長文を書かせる機会がない。夏休みの宿題で書かせるということも、最近ではどの学校もやっていないと思う。感想文については課題もあると思っているが、いずれにせよ小学生はまだまだ本に触れる機会が多くて良いと思う。

前回の協議会でも触れたが、図書館の司書の方々に夏休み前に学校の図書室についてのアドバイスを色々いただいた。ただ本が有れば良いという訳ではなく、貸出されない本がずっと置いてあったり、同じような本が何冊も置いてあったりすることがあり思い切って本を減らすということも必要だということ等を教えてもらった。また、テーブルや椅子の配置を考える、もっとスペースを作る必要等も教えていただき、夏休みに職員で図書室をリフォームした結果、秋になかなか良い感じの雰囲気の図書室になり、子どもたちもとても喜んで図書室に来ている。

(委員)

今後、選書に力を入れるという話もあったので、現在選書会議はどういった形で行われているのか伺いたい。それから、レファレンスについて、今年度は71件ということだったが、これはこれまでと比べて増えているのか減っているのか、どういった内容のレファレンスがされているのかという点も伺いたい。

他の委員からもあったが、ユニバーサルサービスの向上というところは昨今かなり力をいれるべき点であるとされているので、例えば宅配サービス事業についてはどのように考えているか教えてほしい。

他に、マルチメディアデイジーなどの事業を行うのも良いのではないかと思う。

デジタル化は大事な視点だと思う。国会図書館が中心になって行っているジャパンサーチなどに今後加入する予定はあるのかも伺いたい。

(会長)

いくつか質問や確認事項があったので、その点についてお答えいただききたい。

(事務局)

自動販売機については、これまであったコンビニもなくなっている現状もあり、利用者からの要望があることについては市の方に状況を伝えている。

(事務局)

アタゴオルの巡回先について、昨年度と比べて減った箇所は、昨年度閉校した小学校2箇所とその近くの学童1箇所の合計3箇所。新設の3箇所は、市役所と、閉校した小学校1校の近くのコミセンと、依頼があった高齢者施設である。

(事務局)

選書会議という形で集まるのは毎月一回、休館日に会議を行っている。当館はシフト制で職員が揃う機会がなかなか無いので、選書については個々にカタログで選ぶことが多い。その他、予算の範囲内で各担当が重点的に収集したい分野の本を購入している。選書会議では、金額が少々高価な本についての購入を検討したり、集まって検討したいことについてその場で話し合ったりしている。

(事務局)

デジタル化に関しては、平成28年の開館前から「デジタルライブラリー」という形で貴重な郷土資料の公開を始めており、大変好評である。国会図書館を中心にデジタル化が進められてお

り、今年度の山形県立図書館主催の研修会では、ジャパンサーチへの参加の呼びかけもあった。

当館では、資料を使う場合は掲載許可申請をしてもらい、書籍の場合は掲載本を、映像の場合はDVD等を図書館に提出してもらっている。ジャパンサーチに入ってそれが無くなると、資料を利用した本を当館で購入しないといけないことや、テレビに映っていたことについて後日問い合わせがあったりすることが予想され、それらの点を危惧している。このため、現段階ではジャパンサーチへの参加については見送っている。

新聞資料のデジタル化については、マイクロフィルムを閲覧する機械で、JPEG や PDF に変換できるので、ボランティアの方々に 1 コマごとにデジタル変換を行ってもらっている。今後もデジタル化を進めていく。

(事務局)

ハンディキャップサービスとして設置した「りんごの棚」は、スペースの関係もあり、現在は「LL ブック」という障がい者向けの資料を配架している。「LL ブック」とは分かり易い言葉を選んでいたり、ピクトグラムや絵や写真を多用していたりする本のことで、これまで館内で点在していたものを1箇所を集めて「りんごの棚」というコーナーを設置した。先ほど委員からあったマルチメディアデジターも何本か寄贈されており、今後集めていきたいと思っており、スペースの問題や設置場所等を検討しているところである。

なお、宅配サービスについては、まだ実行や利用への検討にも至っていない。

(事務局)

レファレンスサービスについて、昨年度は郷土資料以外の図書業務で処理した件数は 112 件。月 10 件弱のペースになる。今年度は若干少なくなっているが、理由等はお答えできる材料がこの場がないので保留としたい。レファレンスの内容は多岐にわたり、図書分類のあらゆる分野で問い合わせがある。

選書について補足すると、当館では子どもの読書活動に資することを目標に取り組んでいることから、選書についても色々な情報を参照している。特に、例年全国 SLA(公益社団法人全国学校図書館協議会)が秋に出している「学校読書調査」にある、今どういった本が子どもに読まれているのかという傾向を参考にしている。その他、当館へのリクエストについても、徐々に子ども利用者からのリクエストも増えてきており、子どもの生の声ということで選書の際に大変参考にしている。

また来年度、小学校教科書の改訂の時期となる。国語の教科書の読書単元に掲載されている関連書籍や作者紹介にある著作のリストを参考に選書をし、学習等で活用いただきたいと考えている。

(事務局)

先に掲げた課題に対して、一つ一つの事業については説明させていただいた。その他、ナセ BA として今後どうして行けば良いかという課題について説明する。

一つ目は、ナセ BA が今後サードプレイスとしてどのような位置付けをしていけるかについて。

ここは図書館と市民ギャラリーの複合施設だが、その複合施設を十分に活かしきれているかということでは、先ほど委員からも意見をいただいたところである。やはり、色々な方にご利用いただくために、今やっていることを着実にやるとともに、プラスアルファとして、どんなことをしていけるかについて、考えていく必要があると思っている。

二つ目は、「どなたにとっても来易い場所」「どなたにとっても利用いただける図書館」、そんな思いを持った時に、高齢の方はなかなか足を運ぶのが難しい。また、小さいお子さんも保護者等と一緒になければナセ BA に来られない。その方々のために何ができるのだろうかということも大きな課題である。アタゴオルの巡回は対応の1つであるが、巡回場所の検討とともに、コミセンや学童の要望への対応などもどうすればよいか考えていく必要があると思っている。

三つ目は、電子書籍について。来年度は予算化にならなかったので導入はないが、少しずつ研究を進めていかなければならないと思っている。

最後に、「どなたにとっても」という意味合いの中では、障がいを持った方々や外国語が母語である方々にとって必要な対応がないかについても今後考えていく必要がある。まだ具体的などころまでは進んでいないので、ご意見等いただければありがたい。

(2) 令和6年度事業計画案について

事務局から資料に基づき説明。【資料3】【資料4】

(委員)

ギャラリーの令和5年度事業の中の「清水大典の冬虫夏草」の展示はインパクトがあり、「こういう世界があるんだ」と大変びっくりした。観覧者数が23日間で2,000人もあり、タイムリーな話題に関連付けた展示はたくさんの方々の興味をそそり、多く集まっていたのだと改めて思った。6年度の内容は決まっていると思うが、7年度以降も話題になっている分野に視点を当てて事業を展開するのも面白いと思う。

(委員)

マイクロフィルムのデジタル化に関して、パソコンで見られるという説明だったが、それはオンラインで閲覧できるのか。

(事務局)

著作権との兼ね合いがあるため館内での閲覧になる。マイクロフィルムのデジタル化は、新聞資料と、資料保存の観点から昭和30~40年代の住宅地図を行っている。他に、『有為会雑誌』については、有為会の130周年にあたって別に予算がついたので全てデジタル化しているが、こちらも著作権の関係もあり、web上では公開していない。web上での公開に向けては、国の動向やシステム構築のための予算の状況等をふまえて考えていきたい。

(委員)

デジタル化された新聞記事をキーワード検索できるようなシステムは、出来ているのか。

(事務局)

そこまでは出来ていない。年月日をデータに付けてある状態。国レベルではものすごいスピードでデジタル化が進んでおり、当館としてどのように対応していくのかを検討していくことがこれからの課題であると考えている。

(委員)

デジタル化された資料の閲覧は、利用者の方はどのようなきっかけで閲覧しようというようになるのか。何か館内に案内が出ているのか。

(事務局)

宣伝は特にしていない。

(委員)

どのような宣伝が良いかはわからないが、せっきくの貴重な資料については、このような形で閲覧できることを広くPRした方が良いと思う。

もう一点、健康課の食育に関する展示や、法務局の相続登記の展示をしたギャラリーのコーナー展開とは、どこにあるコーナーのことか。

(事務局)

コーナーは、1階のエレベーターホール外側の壁のところに設けている。今は何も展示していないが、資料に記載されている期間にその場所に展示をした。主に公的機関の展示になるが、最新の展示では法務局から宣伝をかねての展示の要望があり、ここに展示し 2 階図書館では関連ある図書を紹介した。

8. その他

(特に発言なし)

9. 閉会

(館長より)

会長ありがとうございました。また、委員の皆様には、日頃より温かいご支援を賜りまして心から感謝申し上げます。そして本日も私どもが持っている課題に対して、また私どもが気づかない点に関して多岐にわたるご意見等いただきました事、重ねて御礼申し上げます。

先日、ある利用者からお手紙をいただき、大変嬉しい内容でしたので一部紹介させていただきます。

「いつもお世話になり本当にありがとうございます。米沢の図書館は雑誌、料理本、その他数が多くてびっくりです。カウンターの方々には親切にいただき、また専門職の方でなければ分からない知識をいっぱい教えていただいております。学問をして、専門職になられているのに、職員の方々は世の中からそれ相応の評価を受けることもなく、黙々と働いていらっしゃる。もっと利用者はありがたく思わないといけないなと思っています。でも、感謝される仕事で生きがいもある仕事ですね。どうぞこれからも、そして今後もよろしく願います。」

このようなお手紙でした。いただいたお手紙を励みに、そして改めてご利用いただく方々、ご利用いただけないけれども思いを持っていらっしゃる方々の声を大事にして、皆様に愛されるナセ BA であり、そしてたくさんの方にとって居心地の良いナセ BA であり続けられるよう、精一杯努めて参りますので引き続きのご指導ご支援よろしくお願いたします。

最後になりますが、委員の皆様は、この度の協議会への参加で任期の最後ということになります。本当にありがとうございました。なお、「再任をさまたげない」という規約もございますので、来年度以降の委員のご相談をさせていただいた際には、前向きにご検討いただきますようよろしくお願い申し上げます。本日はどうもありがとうございました。